

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経営戦略研究科・会計専門職専攻
大項目	1 教育目的
中項目	
小項目	1.0.1 教育目的
要素	高度な会計職業人養成を目的とした専門職大学院(以下「会計大学院」という。)においては、その創意をもって、将来の会計職業人(会計・監査に係る業務に携わる者)が備えるべき高い倫理観、実務に必要な学識及びその応用能力並びに会計実務の基礎的素養を涵養するために、教育目的を明文化すること。
小項目	1.0.2 教育目的の達成
要素	①1-0-1の目的が達成されるように、各会計大学院は養成しようとする会計職業人像に適った教育を行うこと。 ②1-0-1の目的を達成し、1-0-2①の教育を実現するために、各会計大学院は教育の理念や目的を具体的に示し、それらと矛盾しない体系的な教育を施し、その教育を貫徹するために成績評価と修了認定を厳格に行うこと。 ③各会計大学院は1-0-2②が実施されているかどうかをレビューする第三者評価を尊重し、教育目的を達成するための努力を継続して行うこと。

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育目的達成のためのカリキュラムの基本的枠組みとして各開講科目間の関係を文書化する。	→分野別科目群別開講科目数	D	C			
2. 厳格な成績評価を行うために、絶対評価を加味した相対評価による成績評価を導入する。そのための評価方針を作成する。	→絶対評価を加味した相対評価による成績評価の導入状況	D	C			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし					
なし	→なし					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目 1.0.1	1.0.1 教育目的 (教育目的の明文化の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ ● 明文化している ○ 明文化していない (教育目的) 本学の会計教育・研究は、一貫して米国型の会計を基礎とするものであり、グローバルな視点からの教育・研究に取り組んできている。そして今後は、国際会計士連盟(International Federation of Accountants: IFAC)の国際教育基準(International Education Standards: IES)の内容を尊重して、グローバルな視野をもって世界に貢献し得る公認会計士等の職業会計人を育成することが、本学会計専門職専攻の使命である。会計専門職専攻では、こうした本学の伝統や使命に基づき、「国際的なレベルで世界に貢献し得る公認会計士等の職業会計人を養成する」ことを目的とする。 (説明) 上記の教育理念、教育目的に基づいた会計専門職専攻の目標を、次のとおり定めている。 「建学の精神に基づく高い職業倫理を持った職業会計人の養成」 本学のスクールモットーであるMastery for Service(奉仕のための練達)のスピリットを持ち、国際経済社会の健全な発展に寄与する高い会計倫理観を持った職業会計人を養成する。 「国際的な水準で、世界に貢献し得る職業会計人の養成」 会計に関する国際的な教育基準に従って、グローバルな視野をもった世界に貢献し得る職業会計人を養成する。
	小項目 1.0.2 ★

その他	教育目的達成のためのカリキュラムの基本的枠組みとしてコア・ベーシック・アドバンスの各科目群および各開講科目間の関係について、履修プランを文書化して設定し履修指導に適用している。厳格な成績評価をより進めていくために、絶対評価を加味した相対評価による成績評価を導入している。そのための方針が専攻会議で合意されている。
-----	--

《評価指標データ》

- ★ 学生の手引きより 【表4】 AS教育課程表
- ★ 2010年度開講科目数表
- ★ 履修指導モデル表
- ★

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 1.0.1	
★ 小項目 1.0.2	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 1.0.1	
★ 小項目 1.0.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 1.0.1	
★ 小項目 1.0.2	
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 1.0.1	
★ 小項目 1.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

- 設定された「目標」の進捗評価がDからCへとともにアップしていますが、どの程度の改善が見られたのかももう少し説明していただけないでしょうか。
- 「各会計大学院は1-0-2②が実施されているかどうかをレビューする第三者評価を尊重し、教育目的を達成するための努力を継続して行うこと。」という要素に関しての自己点検・評価はどのようなものでしょうか。
- 現状説明は丁寧で内容が充実しております。
- 教育目的の明文化は、学内外への公表、周知の視点があれば、なお良いと思います。
- 昨年度、記述された「各開講科目間の関係の文書化」「絶対評価を加味した相対評価による成績評価」が実施されました。目標の進捗評価はいずれも「D」から「C」になりましたが、「A」ではない理由は何でしょうか。もし目標が達成していないのであれば、目標をより具体的に作るなどの修正が必要でしょうか。
- 本項目にはありませんが、2008年に受診した分野別認証評価に関する要望事項にもあったように、教育理念・教育目標等について定期的に検討されることをお考えください。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- 教育目的は、HP、パンフレット等により随時周知されているほか、入試説明会等でも明示されている。
- ☆ ○「絶対的評価を加味した相対的評価による成績評価」の達成度をどのように評価するかについては、その方法を検討している。